

とぎつちょう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む ねん はるごう
中学年向け 2024年 春号



「トロリーナとペルラ」

ドナテッラ・ツィリオット/作 長野 徹/訳
北澤 平祐/絵 (岩波書店)

背が低く、丸顔で、黒くてふさふさな髪をしている野暮らし族。ある日、野暮らし族の女王さまに、お姫さまが生まれました。ところが長老たちは、同じ時期に生まれた金髪の赤ちゃんと、とりかえてしまいます！

黒い髪のトロリーナと金髪のペルラ。ふたりの性格はまったくちがっていました。おたがいに、とりかえられたことは知らずに育ったけれど、なんだかいごちが悪くて…。

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「おそうじをおぼえたがらない リスのゲルランゲ」

ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン/作 堀内 誠一/絵
山口 智子/訳 (福音館書店)

リスのゲルランゲは、ブナの林のなかに住む、11匹のきょうだいの末っ子。ランゲルはとても元気でかわいくて、だれもが好きにならずにはいられません。けれども…おそうじが大きい。

とうとう、おばあさんリスにおいだされてしまったランゲルは、なんとオオカミの背中の上におこちた！大きな口でランゲルを食べようとしたオオカミですが…。ランゲルとおおかみのやり取りが面白い、ユーモアたっぷりな一冊です。



「ホームランを打ったことのない君に」 長谷川 集平/作 (理論社)

ボクは出口塁。大逆転をねらって、バッテリーボックスに立った。二三振であとはない。ホームランを打とうと構えたが…結果はセカンドゴロ。しかもダブルプレーでそのまま負けてしまった。

落ち込んでいると、野球部出身の仙ちゃんに会った。仙ちゃんはぼくにホームランのすごさを語ってくれー。



「日本昔ばなしのことは絵本」 千葉 幹夫/監修 (ナツメ社)

「したきりすずめ」で、おじいさんがえらんだ小さな“つづら”や、「きんたろう」がかついでいる“まさかり”ってなんだろう？

昔ばなしにはよくでてくるけれど、今はあまり使われなくなった道具や言葉はたくさんあります。たくさんのイラストで「むかし話のせかいが目で見て手にとるようにわかること」を旨としたこの本は、みんなのハテナを解決してくれるはず。家族みんなで読んでみてね。

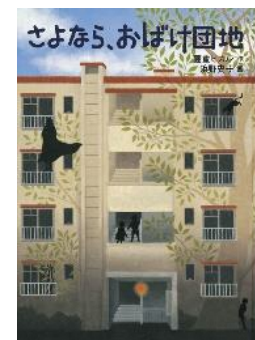


「ジョナスのかさ」

ジョシュ・クルート/文 アイリーン・ライアン・イーウェン/絵 千葉 茂樹/訳 (光村教育図書)

むかしからロンドンには、雨の多いまち。でもね…1750年ごろまでは、だれもかさなんてささなかったんです！雨が降ったら、家から出ないか、馬車ででかけるか、ただぬれるだけか。

ところが、ジョナス・ハンウェイはそれが気に入らない。ある日、だれもさしていないかさをさしてみた！そんなジョナスをみんな大笑い。でも、30年後には…？



「さよなら、おばけ団地」

藤重 ヒカル/作 浜野 史子/画 (福音館書店)

結衣たちが住む古い団地は、みんなに「おばけ団地」といわれています。なぜって、ちょっと怖いワザ話がいくつかあるんです。子どもを給水塔から突き落とす「黒マントの男」がいるとか、存在しない四号棟が夜中になるとあらわれるとか…。そのうわさ話って、ほんとかな？

取りこわし予定の桜が谷団地でおこる、ちょっと怖いワザ話の心温かくなる、5つのお話し。

とぎつちやうりつとぎつとしよかん
発行：時津町立時津図書館